



茅ヶ崎市教育センター  
Chigasaki Educational Center

子どもたちのために  
ともに教育環境を考える  
教育センターの教育情報誌

# 学びあう響きあう

第4号  
平成24年12月3日発行

編集担当/茅ヶ崎市教育センター  
住所：茅ヶ崎市十間坂三丁目5番37号  
☎ 研究研修担当（市青少年会館3階）  
☎ 1467-86-9965  
☎ 青少年教育相談担当（同館2階）  
☎ 1467-86-9963  
URL <http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/kyouiku/13286/index.html>

幼児期の教育についての研究から見えた

## 子どもの反抗期の意味 子どもの世界・子育てのコツとは？

教育センターが、幼児期の教育に関する研究に取り組み始めてから3年目となります。内容としては、日本だけでなく、世界中で盛んに行われている、赤ちゃん研究や乳幼児期の子育ちや子育ての様々な研究について、リサーチしています。その中で、ぜひとも市民や保護者の方々、保育所や幼稚園、小・中学校の教職員の方々に聞いていただきたいという内容を講座や講演会をとおしてご紹介し、幼児期を中心とする子育てや家庭教育を応援していきたいと考えています。

さて、今回のテーマは、今年度の講座やシンポジウムで話題となった「反抗期」を取り上げてみました。

### 幼児期の子どもの姿

「平成24年度開催第3回乳幼児期の子育ち・子育て講座」より（講師 坂上裕子氏、演題「子どもと一緒に楽しむ子育て」、教育センター主催、H24.6.25開催）

反抗期というと、まず思い浮かべるのは思春期かと思います。そして、「いやいやの2歳児」といった言葉に代表されるように、2、3歳の幼児期にも表れます。

この2、3歳代は、自我が発揮

される時期です。遊びや生活の中で、自分の目的や想像力を働かせて身体を動かし、外の世界に働きかけ、その結果によって得られた達成感を次の活動へとつなげて行きます。つまり、自分の領分を広げていき、他者とのぶつかり合いが生まれる時期でもあります。これは、言い換えると「自己主張期」「自己拡大期」と呼ぶことができます。ですから、「反抗期」というのは、大人の視点からの呼び名であって、子どもは反抗することを目的にしているのではなく、自分なりにやってみたいという強い願望が湧き、「自分」という存在とじっくりと対話し、存在を広げていっているのです。それが、「いやいや」という形で表れてくるようです。

こうした幼児期の発達の節目に、しっかりと矛盾や葛藤を経験し、それを乗り越えられたときに、子どもは新しい自分をつくることができます。そこから、自分への信頼や、他者への共感が育まれるようです。

では、子どもが矛盾や葛藤を乗り越えていくとき、大人はどう支え、手助けをすればよいのでしょうか。それは、子どもの思いに耳

を傾け、共感することと、親の思いを伝えること、どちらも大切で、思いを伝え合うことで、相手の思いを考えたり、自分の思いに向き合い、折り合いをつけたりする力



が育まれていくのです。また、「自分の五感を通して世界を感じる」、「身体を動かすこと」、「自分のことを自分でする機会を保障してあげること」も大切です。

### 思春期の子どもの姿

「平成24年度開催第2回響きあい教育シンポジウム」より（講師 芳川玲子氏、演題「思春期にとっての反抗とは」、教育センター主催、H24.7.31開催）

さて、次は思春期の子どもの変化に目を向けてみましょう。先ほど、反抗期は大人の視点からの呼び名であるということをお話ししましたが、一般的に使われている「第二反抗期」という言葉でお話を進めます。

そもそも思春期というのは、身体の変化を示す言葉で、急速な身体面の発達や成熟が特徴です。内面的には、「理想自我と現実のギャップ」、「独立心と依存心の葛藤」、「将来に対する期待と不安」、「自己アイデンティティの模索」という心の変化によって第二反

抗期はつくられます。思い描いている大人の世界と今の自分の姿とのギャップを感じています。

こうした第二反抗期の子どもとの関わり方には、ポイントがあるようです。

- ✧ 親子の会話の頻度が高いほど、子どもは自立心がある。
- ✧ 説教より、会話を重視する気持ち。
- ✧ 転ばぬ先の杖より、見守る忍耐力。
- ✧ 親子の絆はどうかを常に考えて話す。叱って「出ていけ」は避けること。

## ストレス予防接種

「平成24年度開催第2回響きあい教育シンポジウム」より（講師 遠藤利彦氏、演題「反抗と自律—『ストレス予防接種』の大切さ」、教育センター主催、H24.7.31開催）

こうして、幼児期や思春期に自分の存在を拡大しようとしているときに湧き上がってくる恐れ・不安・欲求不満などといったネガティブ（負の）な情動を経験することは、とても大切なことです。それを乳幼児期の「ストレス予防接種」というキーワードから考えてみましょう。

乳幼児期の子どもたちの日常は、怖い思いや欲求不満の連続ですが、こうしたネガティブな感情が湧いたときに、「何とかしたい」、「何とかしなければ」と、泣いたり行動したりすることで周りにはいる大人、特に親に働きかけます。その子どもの求めに応じて親（大人）は手を差し伸べることで、子どもはネガティブな心の状態から抜け出すことができます。子どもは親（大人）とのこうした相互的なやりとりをとおして、「自分の崩れた感情を律する力」を学びます。自分から積極的に働きかけ、

応えてもらった経験が、「自信」へとつながるわけです。

## 自律ということ

また、乳幼児期というのは、自己中心的な好奇心や欲求に駆り立てられた行動が多いので、周りの人や社会のルールともぶつかることが多いです。この「ぶつかる」というのは、親（大人）からすればまさに「反抗」となるわけです。このときに生じる葛藤やネガティブな感情にも自分で対処することが必要になり、周りの人や社会との折り合いをつけながら、自分自身の主張や欲求も部分的にかなえられるようにふるまう姿へと変化していきます。こうして、「他者や社会との関係を律する力」を学びます。



## キレルをとおしてキレナイへ

「自分の崩れた感情を律する力」と「他者や社会との関係を律する力」は、まさに子どもたちの「自律性」となるのです。改めて考えてみると、「反抗」というのは「自律性」が育つために必要で

あり、表裏一体のものと言えるでしょう。

いずれにしても、子どもは葛藤、欲求不満、ネガティブな感情といった「ストレス」を感じているわけです。乳幼児期にこのストレスを心が覚えることで、ストレスに対するたくましさができるのです。これが「ストレス予防接種」の意味するところですが、予防接種というのは、体内に侵入した菌などの異物に対して、身体の中に抗体をつくるために行います。ストレスに対する抗体を乳幼児期にしっかりとつくるのが大切です。

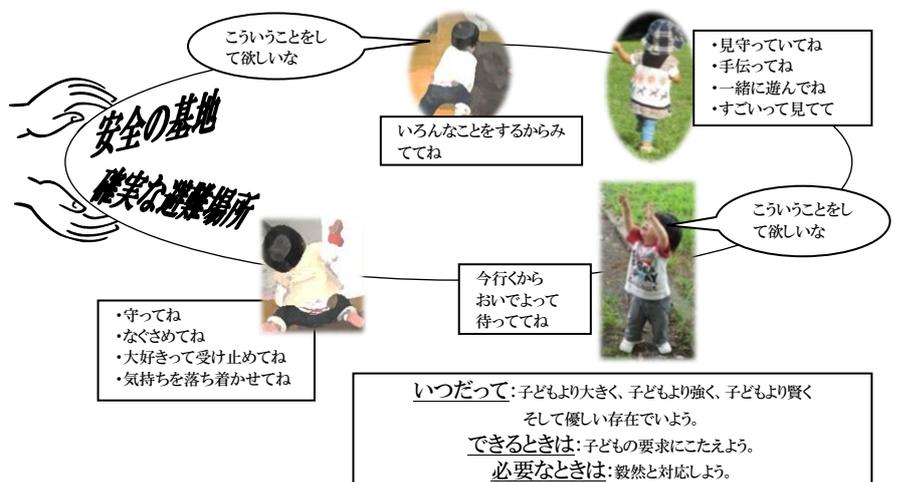
別の言い方をすれば、「キレル」ことをとおして「キレナイ」ことを学ぶということです。乳幼児期の子どもじみた感情（キレル）に辛抱強く向き合い、怒るべき時期と対象と方法をしっかりと教えることで、感情を律する（キレナイ）ことを学びます。

こうした乳幼児期の経験の繰り返し、その後の子どもの成長につながるのでしょうか。

## 親・大人の心構え

1 ページには、具体的に乳幼児期と思春期の子どもたちへの関わり方を記しましたが、総じて言

## 図「安全感の輪」 子どもの要求に目を向けよう



引用 Web page: Circle of security.org 2000 Cooper, Hofman, Marvin & Powell 北川訳(2008)

えることは、親や大人が子どもの感情をしっかりと受け止めてくれる存在であるということです。子どもにとって親が、「安全基地」であり、心が折れそうなときはその感情を受け止め、心の「燃料補給」をしてくれる存在であるということです。それは、乳幼児期でも思春期でも、「安全基地」としての親（大人）の存在はとても重要です。

こうした子どもと親（大人、子どもに関わるすべての人）との関係を輪にたとえることができます。これを「安全感の輪」（前ページ図参照）と呼びます。乳幼児期ではその輪は小さなものですが、成長するにつれて大きく広がっていきます。そして、不安になればすぐさま安全基地である親（大人）の元に戻って燃料補給をします。思春期になると、さらにその輪は大きく広がり、なかなか戻ってこないかもしれませんが、基地としてどっしりとあり続けることが大切です。

## 子どものころと向きあう

「平成24年度開催第4回乳幼児期の子育ち・子育て講座」より（講師 野田淳子氏，演題「乳幼児のころを理解する—子育ち・子育ての心理学」，教育センター主催，H24.10.15開催）

さて、子どもが葛藤や様々な感情を抱いて親のもとに戻ってきたときに、具体的にどのように関わることで葛藤をくぐり抜ける力を育むことができるのかについて、もう少し具体的にお話します。

- ✂ 子どもの様子（表情・行動）をよく見る。
- ✂ 子どもの気持ちを探り、受け止める—“あなた”を主語にして、相手の気持ちを語る。
- ✂ 自分（親）の気持ちや都合を

伝える—“わたし”を主語にして、自分の気持ちを伝える。

✂ どうすれば良いか、一緒に考える。

これは、「親業」としての秘訣です。それと、「一緒に考える」という視点は、子どもの気持ちを共有するという点でとても大切なことです。

これまで、子どものネガティブな感情に目を向けてきましたが、楽しみを共有するという点でいうと、「コンパニオンシップ」という親子の関係が大切かと思えます。一緒に楽しみ、一緒に遊び、親子が対等な関係です。

## 大変だけど楽しい子育て

とはいえ、日々の子育て、子どもたちとの関わりには、悩みはつきものです。大人自身が、喜怒哀楽という相反する感情を抱えながら、日々過ごしています。不安定になるのは当然のことです。

一方で、私たち大人、特に親の世代には、次世代を育むという大きな役割があります。それは、他者の成長や自己実現への援助に心をくだくことができるようになることと言えます。「大変だけど楽しい子育て」という気持ちを持つことができるようになるためには、子どもとともに親も発達するという「共発達」という心持ちが大切であるということも最近の研究では明らかになっています。

## 人とつながる子育て

教育センター・教育委員会・市役所の事業をとおして

このように教育センターでは、乳幼児期の研究を中心にしながら、子育ち・子育て、家庭教育の支援に取り組んでいます。

「子育ては理論だけではでき

ない」というのは当然のことです。でも、子どもたちが抱える様々な感情や課題に対する対症療法は、いろいろなメディアで取り上げられているように何通りもあり、そうしたことをうまく活用しながらも、やはり、目の前の子どもとしっかり向き合い、親（大人）自身が悩みながらも考え、ともに育つということが大切だと思えます。「人を育てる、人が育つということの基本とは何か」ということや、「長い目で見た子育ての中で何をイメージしていくか」について、大人自身が考えるための基礎研究であり、情報提供です。

そして、子育ては一人ではできるものではありません。特に、ヒトの子育ては他の動物に比べて、「子ども期」がとても長く、ヒトの子どもはとにかく手がかかります。子育てに手がかかることが、ヒトの社会性が進化してきた背景でもあります。ですから、できるだけ多くの人とつながりながら子育てしていただきたいと思えます。

私たち教育センターの講座や研修会だけでなく、教育委員会、市役所が取り組んでいる子育て支援事業を必要に応じてご利用いただけましたら幸いです。なお、教育センターの後半の事業を次ページに掲載しましたので、どうぞご参加ください。大切なお子様にとりまして、より良い子育ち・子育てを願っております。



# 12月以降の「家庭教育・幼児期の教育」講座・講演会の予定

## 会場が市役所または青少年会館（教育センター）の講座等（日付順）

名称	日時	講師・内容等
茅ヶ崎市教育講演会	1月26日（土） 10時から12時 （申込期間 12/25～1/21） （年末年始を除く）	講師 香山リカ氏（立教大学教授/精神病理学） 講演 「子どもの生きている世界—悩み多き子どもたち」 会場 市役所分庁舎6階コミュニティホール

## 市立保育園を会場とした 乳幼児期の子育て・子育て出前講座

会場：市内公立保育園 / 共催：保育課・市立保育園

日程	会場保育園	講師・内容等
2月23日（土） 10時から12時 （申込期間 1/23～2/20）	市立 室田保育園	講師 旦直子氏（帝京科学大学准教授/発達心理学） 講演 「3歳児神話・早期教育のホントウソ ～子どもの力を見つめる子育て」

・申込方法：お電話・FAXで、①お名前と人数、②ご連絡先電話番号、③託児ご希望の有無

## 乳幼児期から思春期の子育て・子育て出前講座

小学校区青少年育成推進協議会のご協力をいただき各3回シリーズで開催しています。

【共催】茅ヶ崎小学校区青少年育成推進協議会、中海岸保育園、男女共同参画課  
【後援】高砂コミュニティセンター管理運営委員会

日程	会場	講師・内容等
12月9日（日） 10時から12時 （申込期間 11/12～12/6）	高砂 コミュニティ センター	講師 須永美紀氏（立教女学院短期大学専任講師/保育学） 講演 「乳幼児期の子どもの成長をみつめる 一心をはぐくむ子育て・大人の役割」
2月17日（日） 10時から12時 （申込期間 1/21～2/14）		講師 北島歩美氏（日本女子大学カレッジセンター准教授/臨床心理学） 講演 「思春期の親離れ・子離れの心理—家族をつなぐものとは？」

### 【申込方法】

お電話・FAXで、①お名前と人数、②ご連絡先電話番号、③託児ご希望の有無をお伝えください。

### 【申込先】

茅ヶ崎市教育センター研究研修担当  
住所 茅ヶ崎市十間坂三丁目5番37号  
電話 0467-86-9965  
FAX 0467-88-1394